

舛添要一 身体検査「噂の下半身」



かつて、大臣になるため、舛添要一さん、いわゆる「身体検査」は会計士から合格の印をもらったそうだが、「下半身の身体検査」はどうなんだろう。彼の華麗な経歴に女の影がつきまとう。その真相を追及してみる。

情報の真偽は、すべて「噂の真相」（94年5月号）に準拠している。特集1

舛添要一さん、4度結婚して、過去3回離婚してる。

- ① 東大で革マル派として活動していたころ学生結婚。
- ② フランス留学中フランス人と結婚、その後離婚。
- ③ 自民党代議士片山さつきと結婚、その後離婚。
- ④ 元秘書だった女性と4度目の結婚。その裏で泣いている女性も多いかも。

●女性スキャンダル（「噂の真相」94年5月号）

舛添センセイにとってネックとなりそうなのは、ほかならぬ女性問題である。舛添の女好きはあまりに有名で、94年の道知事選で候補として名前があがった際も、地元では対立候補が、即座に過去の女性関係を問題にする動きがもちあがった。

舛添はヨーロッパに留学中、フランス女性を見染めて結婚しているが、帰国後の81年に離婚。女性の母国で暮らさないと、うまく行かないというのが、離婚理由だという。

また、1986年、舛添要一（当時東京大学助教授）は、今度はミス大蔵省といわれた美人官僚（衆議院議員片山さつき。旧姓は朝長ともなが）と見合い結婚するが、89年に再び離婚している。結婚期間2年。いずれも原因は舛添の女性問題+暴力と言われている。



大蔵官僚片山さつきとの離婚の翌年には、大阪の深夜番組にレギュラー出演していた際に知り合った**テレビ制作会社の女性スタッフ**に手をつけ、自分の秘書に強引にヘッドハンティングする。

また、有名人との噂も絶えず、番組で共演した蓮舫にプロポーズしてみたり、**高市早苗**や**小池百合子**を口説いたとの噂も流れている。噂

もっともトラブったのは、二人の愛人に次々と**子供を産ませた**ことだろう。

一人は、舛添が片山さつきと離婚前から、**愛人関係にあったHサン**、当時 88 年、32 歳で英語の堪能なキャリアウーマン。舛添が離婚する直前に男の子を出産。舛添氏は認知をしぶったあげく、2 年後の **1990 年暮**に認知している。

ところが、舛添は、この認知届け提出とほぼ同時期、90 年暮、今度は、**別の女性Sサンとの間に女兒**をもうけている。

Sサンもやはり当時、34 歳。企画会社を自分で経営しているキャリアウーマンだ。舛添とは、彼の関係する会社で働いていた時に知り合ったという。このSさんとの間にできた**女兒**についても、舛添は **91 年**に認知している。これも実は当時、北海道知事選を前にスキャンダル発覚を恐れて、不承不承、認めたというのが真相らしい。

平成11年都知事選挙 開票結果	
ドクター・中松	100,123
柿沢 こうじ	632,054
三上 満	661,881
明石 康	690,308
ますぞえ 要一	836,104
はとやま 邦夫	851,130
石原 慎太郎	1,664,558

注) 立候補予定で準備はしたが、対立候補、横路氏の優位が確実であったため、立候補はしなかった。立候補は都知事選（落選）から。（平成 11 年都知事選結果）

もっとも、自ら「**英雄色を好む**」とうそぶいている舛添センセイ。キチンと責任がとれるなら、何人愛人がいようが、隠し子がいようが、非難するほどのこともない。

しかし、彼女たちに対する舛添の態度は、とても「責任をとる」などによべるシロモノではない。現在では一応、二人の子供を**認知**して、**養育費**を支払っている。「他にもう一人、別の女性との間に**子供**がいるという話もありますね」（週刊誌記者）

男児の母であるHサンの母親が、娘Hサンにかわって、「今も憤懣やる方ない」と話す。

「舛添は最初からずっと『俺は絶対に認めない!』と言い張っていた。それが北海道知事選の話が出たとたん、急に認知すると言い出したんですから、ひどい話です」

舛添の無責任ぶりはそれだけではない。

母親が続ける。「舛添からは一切連絡はありませんし、こちらからは本人に連絡がとれないんです。すべて事務所の人を通してという形です。この間も子供が高熱をだして大変だった時、電話だけでもしてくださいと頼んだんですが、それすらなかった。自分の子供だというのに、血も涙もない男ですよ」

もう一人の元愛人、女兒の母、Sサンの場合もまったく同様に、本人からは一切連絡もなく、事務所を通じ養育費が支払われるのみという。

「舛添は女性を気に入ると、『結婚しよう』を連発して口説きまくるんです。ところが、飽きたらすぐボロ雑巾のように捨てて知らんぷりを決め込む。これじゃあ、トラブルにもなりますよ」
(前世・テレビ関係者)

また、女性に対して暴力をふるうことでも有名で、大蔵官僚片山さつきとの離婚トラブルの原因ともなった。しかし、当の舛添センセイは一向に懲りる気配はない。

最近(94年5月現在)またぞろ、自分の事務所のスタッフの一人を愛人にしているとの情報もある。

(2007年現在、妻となっている)「舛添事務所にはスタッフが10人ほどいるんですが、その大半は若い女性。舛添は彼女たちにも次々と手をつけているようなんです。本人はハーレム気どりなんでしょうが、公私混同もいいところですよ」 (週刊誌記者)

男と女が親しくするには法律はない。

それをどう解釈するか、法律に詳しい知識を悪用すれば、いかようにも女をだませる。男と女のSexは同等であるとすれば、どっちが損した、得したはない。女は傷つきやすいもの、という演歌の世界は時代遅れ、と切り捨てられるか。あくまで男女は同等、と押し通せるのか、それをうまく舛添センセイ、利用していないか。

それでいながら、「英雄色を好む」を地で行く舛添センセイ、「女の一人や二人をモノにできないで政治家なんかやれるか」と言ったそうだが、彼の行跡をよく見ると、彼は法律違反や、罪に問われる行為は避けている。

法律に触れないように行動している。優しさを感じさせないのは、センセイの仁徳のなさか。従うものにだけは哀れみを与える、そんなスタイルに見える。

さて、舛添センセイ、**下半身の身体検査は合格しているでしょうか。**



【都知事選「本命」舛添氏 高支持率も最大のネックはカネ】（日刊ゲンダイ 2014/01/04 掲載）より

この男が本当に「首都の顔」としてふさわしいのか。自民党の世論調査で舛添要一・元厚労相（65）がダントツの支持を集め、都知事レースで本命視されつつあるが、チョット待て。舛添には自民党除名の過去以外にもネックがある。ズバリ、カネの問題だ。「世論調査でトップになって以降、「舛添さんはカネに困っているんじゃないか」「大丈夫か」と心配する声が高まっているんです。その証拠に、週刊誌にあんな記事が出ましたからね」。そう自民党関係者が危惧するのが、舛添の婚外子の養育費にまつわるトラブルだ。昨年12月に週刊ポストが報じた。

■資産10億円説も月22万円の養育費ケチる謎

舛添は2度の離婚を経験。3人目の妻である現夫人と2人の実子をもうけたが、それ以前に2人の元愛人に産ませた3人の子供を認知している。この婚外子のうち、重い障害を抱えた現在25歳の子供の養育費をめぐる、元愛人と家庭裁判所で調停中だというのだ。

「記事では、12年4月に「自分の年収が激減している。月額22万円の扶助料（養育費）を減らしたい」と、いきなり元愛人に通告したというじゃないですか。調停を申し立てられると、昨年11月には「現在の収入は月10万円」と記された給与明細を提出したとも書いてあった。議員を辞めて安定収入を失ったとはいえ、そこまで貧窮するものか、と驚きましたよ」（自民党関係者）

養育費をケチるほど生活が苦しいとは、にわかには信じがたい。

大臣時代に公開した資産の大半は公社債で、額面は約3億2000万円に上っていた。

このうち社債の多くが何らかの理由で焦げ付いてしまったのか。